

納税者の視点で次の世代に責任ある財政に（案）

～スマート自治体に向けて～ 市民の役に立ち続ける市役所として、桑名の未来を切り拓く力を育むための取り組みです

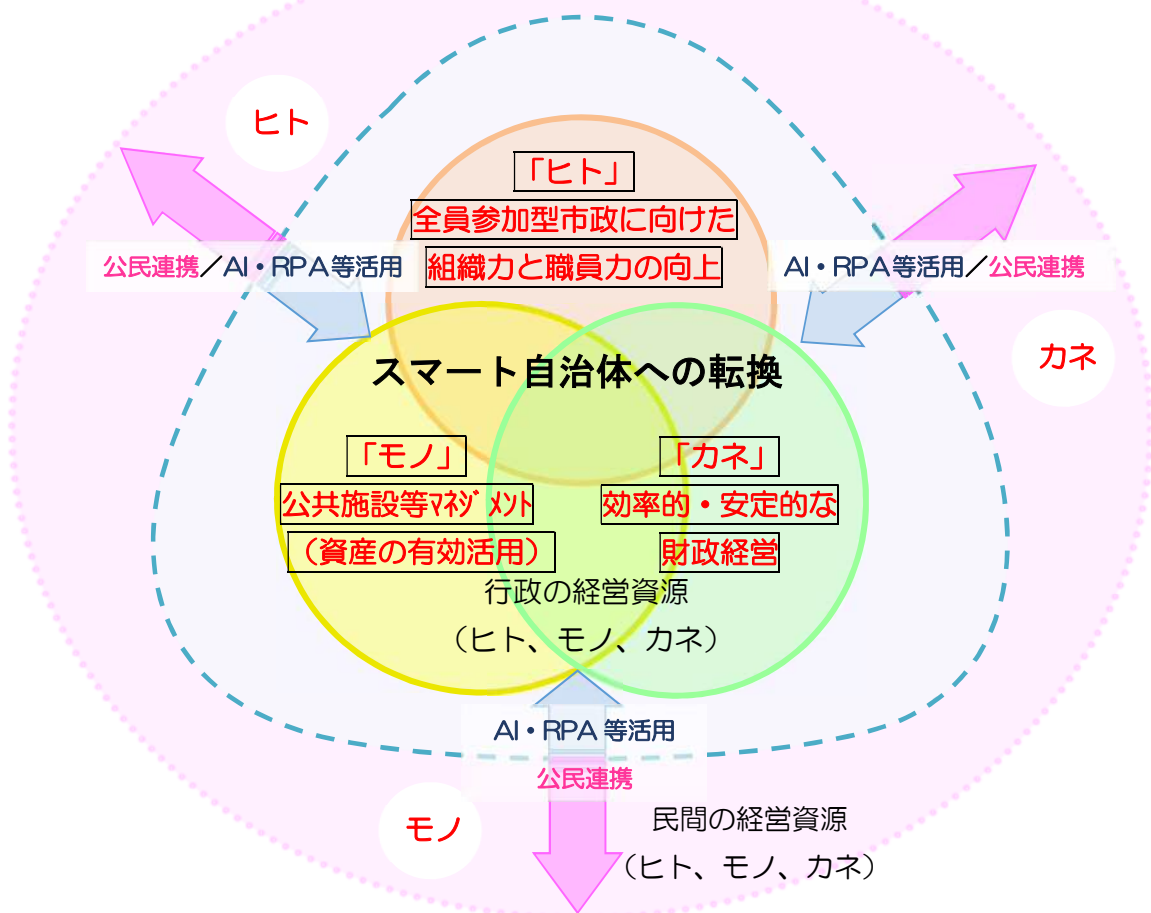
行財政改革

基本方針

- ・サービスを納税者の視点で考え、税金の使い方を見直し、財政基盤を強化しながら、時代に応じたサービスの提供を図るため、「納税者の視点で次の世代に責任ある財政に」を基本方針として掲げます。
- ・これまでの常識や価値観に捉われることなく、社会の変化を絶えず意識し、そこで得た「情報」を取り入れ、発想の転換や新たなアイデアの導入によって、柔軟に変化し続けていきます。
- ・縦割り行政を廃し、新たな手法やアイデアを柔軟に取り入れて、個人が保有するスキルや公共施設等の資産、各部署が保有する「情報」をシェア（共有）するなど、既存の枠組みに捉われない取り組みを進めます。
- ・行政の経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」を基本に、これらの経営資源を民間の視点から見直し、民間の経営資源を積極的に活用したサービスの実現を目指す「公民連携」を、さらに進めます。
- ・行政の経営資源が制約されるなか、AI・RPAなどの技術革新の成果を積極的に活用し、業務の効率化やサービスの提供を図ります。
- ・「ヒト」「モノ」「カネ」が、より有効活用され、かつ「情報」をシェア（共有）しながら、それぞれの結びつきを強めることにより、従来よりも効率的・効果的な行財政運営を実現する「スマート自治体」への転換を図ります。

行財政改革の基本方針

納税者の視点で次の世代に責任ある財政に



・AI…人工知能のこと。学習、推論、判断といった人間の知能をもつ機能を備えたコンピューターシステム。
 ・RPA…ロボティック・プロセス・オートメーションの略。ソフトウェアのロボット技術により、定型的な事務作業を自動化・効率化すること。

総合計画の基本理念における行財政改革の役割

本物力こそ、桑名力。

中央集権型から全員参加型の市政に

現在、イメージ図は作成中のため、(案)でお見せしています。



どうやって、桑名市の行財政改革を進めていくの？

【技術革新の成果の活用】
AIやRPAを活用して、サービスや生産性を向上させることが大切だね。

【公民連携の活用】
民間のノウハウやアイデアを積極的に取り入れて、効率的・効果的にサービスを提供していくことが必要だね。



1 全員参加型市政に向けた組織力と 職員力の向上 ヒト

～スマート自治体に向けて～ 市民の暮らしを支えるヒトを育むための取り組みです

目指す未来



納税者の視点に立ち、

「市民の暮らしをしっかりと支え、職員の誰もが輝き、いきいきと活躍する組織となり」

次の世代へ責任を持って引き継いでいきます。

現状と課題

・職員一人ひとりの能力を最大限に引き出すとともに、その能力を発揮できる仕組み、環境を整備することで、政策を推進していくことが求められています。

・将来的な人口減少や時代の変化に対応していきながら、市民や民間企業等がより積極的に参加できるよう、職員の意識改革や創意工夫が必要となっています。



現在、イメージ図は作成中のため、(案)でお見せしています。

誰もがいきいきと活躍できる元気なまちになるといいな。

市民の暮らしを支える職員をきちんと育てることが大切だね。



1. 組織の見直し

- ・限られた労働力の中で本来の機能が発揮できるよう、AI・RPAなどを活用して、効率的・効果的なサービスの提供に努めます。
- ・職員の意欲と能力を引き出すことを念頭に長期的な視点に立ち、適材適所の人事配置を進めます。
- ・部署間での「情報」のシェア（共有）が図られる工夫など、部署ごとの縦割りの弊害をなくしていく取り組みを進めます。

職員の役割も、変化していく必要があるね。



2. 職員力の向上

- ・「高い倫理観、強い使命感と豊かな人間性を持った職員」を目指し、職員力の向上に努めます。
- ・職員のキャリア形成を支援し、職員一人ひとりの意欲を高め、その意欲を活かす仕組みや組織づくりに取り組みます。
- ・さまざまな市民ニーズに応えるために、スペシャリストなど外部の人材も含めた多様な人材を活用し、組織の活性化を図ります。
- ・社会の変化を絶えず意識し、そこで得た「情報」を幅広く取り入れながら活用し、行動できる人材の育成に努めます。



一人ひとりのやる気が大切だね。

3. 職場環境の向上

- ・長時間労働を前提とした働き方を見直し、職員が率先して「ワーク・ライフ・バランス」の実践に努めます。
- ・自己研さん・地域活動・社会参加に積極的に取り組み、そこで得た知見を業務に活かせる職場づくりを進めます。

プライベートが充実していることが、働く意欲につながるね。



2 資産の有効活用 モノ

～スマート自治体に向けて～ 公共施設等の総量を見直すと共に、適正なあり方を目指すための取り組みです

目指す未来



納税者の視点に立ち、

「限られた公共施設等の資産を、
有効的に活用し」

次の世代へ責任を持って引き継いで
いきます。

現状と課題

- ・将来的な人口減少や時代の変化にあわせて、役割が重複する施設の機能転換などの利活用方法を検討する必要があります。
- ・公共施設の老朽化に伴い、多くの施設が大規模改修等の更新時期を迎えます。
- ・多様化する市民ニーズに応じて、サービスの提供が求められています。



私たちが次の世代のことを考えてい
かないといけないね。

みんなの声を聞きながら今後の計
画をしっかりと立てることが必要
だね。



1. 公共建築物、いわゆる「ハコモノ」のマネジメント

- ・ 公民連携など多様な手法を用いて、複合化、多機能化、相互利用（シェア）の推進を目指します。
- ・ 第1次アクションプランに示した取り組みの方向性を具体化するため、個別施設計画を策定し、計画的に公共施設マネジメントに取り組みます。
- ・ 市が保有する資産を有効的に活用し、サービスの提供を行います。
- ・ 公共施設の効率的な維持保全、また有効活用を図るため、民間事業者等からの提案も得られるように「情報」を適切に公開します。

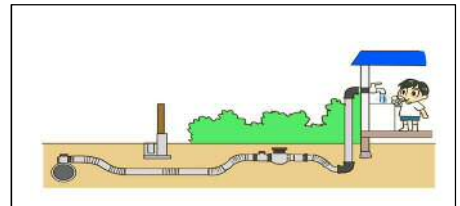
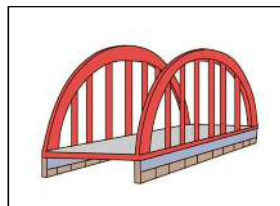
次の世代のために、公共施設の未来を、みんなで考えていく必要があるね。



2. 社会基盤施設、いわゆる「インフラ」のマネジメント

- ・ インフラの更新費用が不足するなかで、適正な更新と維持管理を行います。
- ・ 大規模災害にも耐えうるインフラへの機能強化に努めます。
- ・ 効率的な維持保全を図るために、「情報」のシェア（共有）を進めます。

社会基盤となる施設の更新と維持管理の計画を、しっかりと立てないといけないね。



3 効率的・安定的な財政運営 カネ

～スマート自治体に向けて～ 皆さまからの大切な税金を、有効に使うための取り組みです

目指す未来



納税者の視点に立ち、

「市民ニーズに応える、健全で持続可能な行財政運営を行い」

次の世代へ責任を持って引き継いでいきます。

現状と課題

- ・将来的な人口減少や時代の変化により、将来的に歳入の減少が見込まれるなか、稼ぐ意識を持った取り組みが必要です。
- ・無駄のない予算編成に努めて、歳出削減を行ってきましたが、次の時代を見据えた新たな財政運営の仕組みづくりを進めていくことが求められています。



現在、イメージ図は作成中のため、(案)でお見せしています。

新しい時代に対応した取り組みを進めることで、「財政が良くなりそうな光」が見えてきそうだね。

今までは節約を続けてきたけど、これからはみんなが喜ぶようなお金の使い方が必要になってくるね。



1. 財政基盤の強化（財政健全化）

- ・技術革新がもたらす効率化により生産性を向上し、スマート自治体へと転換することで、「ヒト」「モノ」「カネ」の結びつきをさらに強めて、財政基盤を強化します。
- ・長期的な視点に立ち、時代の変化や市民ニーズに対応した、効率的な財政運営を行うことで、持続可能なまちを目指します。

「財政基盤の強化」は、みんなの関心も高いから、しっかり考えていかなければいけないね。



2. 新たな歳入確保の推進

- ・地域経済の活性化、好循環を生み出す事業に取り組むために、稼ぐ意識を持ちながら、これまでにない新しい予算編成を行います。
- ・ふるさと応援寄附、未利用財産の売却・貸付、市の保有する財産に広告事業やネーミングライツを導入するなど、公民連携をはじめとした様々な手法により、税収入以外の歳入確保をより一層図ります。



これからは、自治体も「稼ぐ視点」を持つことが、求められていくね。

3. 歳出削減

- ・限られた財源の中で、スクラップ&ビルドの考え方にに基づき、的確な予算編成に努めるとともに、時代の変化に対応した事業を進めます。
- ・公民連携をはじめとした様々な手法により、サービスを提供しつつ、コスト削減を図ります。

無駄なく必要なところに使えるように、お金の使い道はしっかりと考えないといけないね。

